

10月28日から10月31日の4日間、岐阜県下呂市及び七宗町^{ひちそうちょう}において「地域森づくり構想技術者育成研修」が開催され、群馬・富山・長野・愛知・三重・滋賀・京都の県・府職員、県森連や民間職員と中部局の職員など16名が受講しました。

この研修は、ICT等の先端技術を活用し、効率・効果的な木材生産の基盤となる路網計画を含む、総合的な森づくりの構想を作成できる人材の育成を目的に、全国五ブロックで実施し、中部ブロックについては当センターが運営を支援しています。

研修は、現地実習や演習を通じて実践力を養うことに重点が置かれています。初日は外部講師による地域特性に応じた森づくり構想の講義、2日目は、七宗国有林にて、路網計画の検討や森づくりの実習、3日目は、班ごとに実際の路網・森林整備・木材生産の各事業計画を組み上げ、最終日は検討結果を班ごとに発表しました。



受講生からは、「所属の垣根を越えて議論が交わせたことで、民国連携による地域林業の発展への展望が見いだせた。」、「様々な指標に基づき森林を評価し、時間軸で森林を捉える重要性」、

「最新技術や各種ソフトを活用して、市場のニーズに応じたサプライチェーンを含めた戦略や地域の構想作りのノウハウを学習できた」などの感想が聞かれ、民国それぞれの技術力養成の一助となりました。

当センターでは、今後もより良い研修運営をサポートしてまいります。

